

## 7 神戸事件発生地

中央区三宮町2-4(三宮神社)

- ▶ 三宮神社は西国街道に面しており、かつては境内から湧き出る清水が、神戸に出入りする船の飲料水に使われていたそうです。

イギリス外交書記官のアーネスト・サトウの日記には、次のような記録が残っています。

「二月四日(陰暦一月十一日) 早朝から備前藩兵が神戸を通過してゆくのを見たが、午後二時頃、ある家老の行列が一名のアメリカ水兵を射撃した。その水兵は、行列のすぐ前方を横切ろうとしたのである。この発砲につづいて、かれらは出逢った外国人をひとりのこらず殺害しようとしたが、幸いにも大事にいらなかった。

彼らは居留地の奥の端を通る道を通すんでいたが、いっせいに射撃を開始したのである。

かれらが使っていたのは元込め銃だっと思う。外国人が、平地をころげるように逃げてゆくのが見えた。

アメリカ海兵隊員は、ただちに追撃を開始した。

イギリスの護衛兵も集合を命じられ、若干のフランス水兵も上陸した。(途中省略)

われわれの最初の一斉射撃で敵は方向を転じ、畠に駆け込み、堤の下からわれわれ目掛けて撃ってきた。

これにもう一度反撃を加えると、敵はいっせいに逃げ出した。

これを追撃し、時折逃げそこなった敵を見つけると発砲しながら進んだが、かれらは丘陵地帯に逃げ込み、ついにその姿を完全に見失ってしまった。(以下省略)」



### <地中から出た大砲>

大正13年(1924)、市電の敷設工事中に大砲が3門発見され掘り出されました。

その後、大砲についていくつかの説が出ました。

①和田岬砲台にすえつけられた大砲

②福岡藩が船で積んできた大砲 などなど

神戸事件勃発直後に、福岡藩の蒸気船蒼隼丸が兵庫港に碇泊していました。

外国人は港に碇泊していた福岡藩、筑後藩、宇和島藩、平戸藩、越前藩の船を抑え、武器を没収し、その時に大砲も入っていたのではないかとされています。

結局、確認されないままこの3門は新川橋詰に柵を設けて並べられました。戦時中、金属回収の

供出がこの3門も適用される事となりましたが、神田兵右衛門がそのうちの

1門を引き取り、邸内に保管していました。その後、戦災等で保管が難しくなり

国際港湾博物館に納められ保管される事となりました。(国際港湾博物館はその後閉館しました)

さて、三宮神社にあるこの大砲も、ある古鉄屋の前に捨て転がされてあったのが、「神戸事件発生地」である三宮神社に寄贈されたものです。



情報提供:白濱忠信氏

## 8 河原 靈 社

中央区三宮町2-4(三宮神社)

- ▶ 三宮神社と河原靈社とは関係ありません。  
寿永三年(1184)源平興亡を決する戦いのとき、源氏軍が生田川の東へ迫りますが平家の守りは厳重で攻め入ることが出来ず、そのとき武蔵國の河原太郎高直、弟 次郎盛直の兄弟は先陣を名乗り、大軍の敵陣へ切り込みました。しかし、あとが続かず惜しくも兄弟ともに敵の矢に討死しました。この勇敢な働きは味方を励ますことになり、ついに源氏は勝利します。  
源頼朝は、のちに兄弟の功に報いて子孫に生田の庄を与えたと「源平盛衰記」にあります。  
兄弟の塚は、いつとなくなくなってしまいました。

## 9 生 田 の 森 / 生 田 神 社

神戸市中央区下山手通1-2-1(生田神社)

- ▶ 生田神社の北側には大きな森があります。ここは「生田の森」と呼ばれており、古くは旧生田川(現在のフラワーロード)のあたりにまで及ぶ広大な森林だったようです。  
この森の歴史は古く、清少納言の枕草子にも「杜(もり)は生田」という記述が見られます。  
平安時代の貴族もこの森を訪れ、多くの和歌を詠みました。  
森は楠で覆われていますが、境内には松の木が1本も無いのが特徴です。  
松を忌み、正月は門松ではなく杉盛りを楼門に立てています。



## 10 源平合戦 梶原景時ゆかりの地 梶原の井 / 生田神社

神戸市中央区下山手通1-2-1(生田神社)

- ▶ 別名「かがみの井」といわれています。源平合戦の折、生田の森合戦があり、源氏の武将梶原景時がここにあった井戸の水を掬って武運を祈ったと伝えられています。  
また、景時の子 梶原景季が井戸の水を掬ったとき、般若の梅の花影が映ったとも言われています。



# 箆の梅 / 生田神社

神戸市中央区下山手通1-2-1(生田神社)

- ▶ 梶原景季が生田の森合戦で、ここにある梅の枝を箆に差して奮戦したという伝説が残っています。  
箆(えびら)とは矢を入れて背中に背負うものです。



梶原景季



### <梶原景時・景季 父子>

治承4年(1180)に源頼朝が挙兵すると、梶原景時は平家方の大庭景親と共に石橋山の合戦で迎え撃ちましたが、景時は頼朝一行を見逃します。頼朝はこの時の行為を深く感じ入り、景時を重用する事となります。頼朝に服属してからの梶原一族は平家追討に功を立て壇ノ浦の合戦にて平家を滅亡させることとなります。頼朝の弟である源 義経と共に平家討伐に参陣していた折、義経と意見が合わず頼朝に讒言(他人を陥れようとして、事実を曲げ、偽って告げ口をすること)したことが兄弟の仲が悪くなったといわれています。その後、奥州合戦にも従軍し、頼朝の評価が高かったのですが、その反面、多くの御家人の反発を買ってしまいます。

頼朝が死ぬと事態は急変し、北条氏を始めとする御家人達は、景時に謀反の疑い有りだと弾劾します。景時は息子らを引き連れて京に逃れんとしましたが、その途上で討たれます。

梶原景時の嫡男景季は、通称源太といひます。木曾義仲追討に際し、宇治川の戦いにおいて佐々木高綱と先陣を争っています。続く一ノ谷の戦いでは箆に梅の花の枝を挿して奮戦し、板東武者にも雅を解する者がいると敵味方問わず賞賛を浴びました。

この戦いで平重衡を捕える手柄を立てています。その後も鎌倉幕府内で順調に地歩を固めますが、源頼朝の死後父とともに失脚し、駿河国で討ち取られました。



2007年2月17日(土)

藤原紀香さんと陣内智則さんが、生田神社で挙式！  
生田神社側は紅白の幕を高さ3メートルまで張り巡らせて目隠しし、周囲は厳戒ムード。  
警察官や警備員計約400名が警備にあたったそうですが、それでもファン約100名ほどが祝福に駆けつけたそうです。  
挙式は神前式で、束帯と十二単の装束が話題を呼びました。

### 束帯(そくたい)

平安時代以降の天皇以下公家の正装(平安装束)。  
衣冠を「宿直(とのい)装束」と呼ぶのに対し束帯は「昼(ひの)装束」と呼ばれています。

### 十二単(じゅうにひとえ)

平安時代の10世紀から始まる女性貴族用の正装(平安装束)。実際は12枚衣を重ねるわけではありません。正式名は五衣唐衣裳(いつつぎぬ、からぎぬ、も)、または女房装束(にようぼうしょうぞく)といひます。

## 12 旧兵庫県庁舎(県公館)

神戸市中央区下山手通4-4-1

- ▶ この建物(旧南庁舎)は建築家山口半六が兵庫県庁舎として設計し、明治35年(1902)に竣工した近世フランスルネッサンス様式の建物です。昭和58年(1963)まで使用されました。昭和60年(1985)に「兵庫県公館」と名前を変えて再開館しました。建設当初から残っているものは建物外壁のみですが、その歴史的文化的価値の高さから国の有形文化財に登録されています。館内には県政資料館があり、歴代の兵庫県知事の写真が飾られています。



初代兵庫県知事 伊藤博文



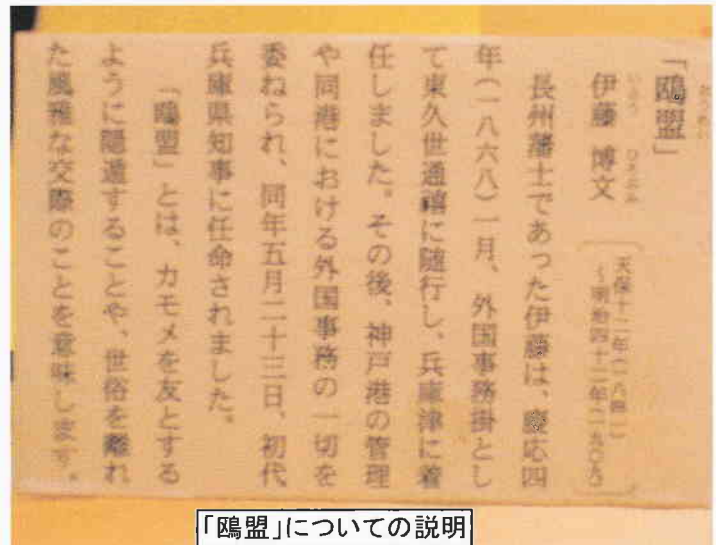
第4代兵庫県知事 陸奥宗光



第5代兵庫県知事 税所 篤



伊藤博文の書「鷗盟」  
※春畝(しゅんぼ)は伊藤博文の号。



「鷗盟」についての説明



兵庫県公館

<県政資料館開館日>  
月～土曜日(年末年始除く)

## 13 明治天皇臨幸記念碑

神戸市中央区下山手通5-10-1

- ▶ 明治13年(1880)、明治天皇は神戸に行幸されました。同年7月20日京都より到着し、栄町にある對賓館に入りました。その日の夜は提灯行列が行われたそうです。翌21日に兵庫県庁を訪れました。その後、神戸師範、植物試験場、物産陳列場、神戸裁判所、神戸税関を訪れました。この日、楠木正成に正一位(これまでは正三位)を贈位なさっておられます。

